

本を選ぶ

高校図書館版

NO.42 2006年(平成18年)11月10日
http://www.las2005.com

●発行/ライブラリー・アド・サービス
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 5-20-5-504 TEL-03-3235-6168

ぶっく・えんど

身の丈に合わせて理解する

四国の小京都といわれる小さな城下町で私は育った。町には図書館がない。小中学校にも勿論ない。唯一貸本屋が一軒あり、母にお金を貰って本を借りに行くのが楽しみだった。かび臭い本が並んでいた薄暗い店で、半日くらい居続けて本を読んでいたけど貸し本屋のおじさんは何も言わなかった。

小学生の時読んで作者のわからない『地底都市』が面白くてたまらなかったのを今でもわくわくしながら思い出す。

高校に入って一番嬉しかったのは、小さな西洋館風の建物の図書館があったことだった。風貌が山羊に似ているので「めえー」と呼ばれて親しまれていた年齢不詳の男性がいた(今思うに司書だったのかな)。めえーさんに私はヘッセ、リルケ、モームをおしえてもらった。

今でもよく覚えているが、あの時代の新刊だった『二十五時』(コンスタンチンヴェギル・ゲオルギウ作)や『醜女の日記』(シャルル・プリニエ作)や小林秀雄の『ゴッホの手紙』、それに三島由紀夫『仮面の告白』など、いろいろな本を紹介してくれた。

私は夢中で読んだ。読書が楽しくて、楽しくて、人生で一番幸せな時だったかもしれない。

昭和31年1月～12月まで中央公論に谷崎潤

一郎の『鍵』が連載された。

新聞で知り、どんな小説か興味しんしんで、「中央公論」が図書館に来るのを待っていたが、なんと『鍵』は切り取られていた。めえーさんは「先生達の協議の末、高校生が読むのには適切ではないと切り取られた」とすまなさそうな顔をして言っていた。

後で、めえーさんが切り取った頁をホッチキスで止めたのをそっと貸してくれた。文藝部の仲間でもわし読みをしたが、その時どんな事を話し合い感想を語りあったのかおぼえていない。ただ、全く未知の「性」の世界をのぞいたということで、みんなポーズとして恥ずかしくてたまらなかったし、口に出すのも嫌だという雰囲気だったのをなんとなく思い出す。

読むんじゃあなかったとあとで私は苦い思いをした。ヘッセの世界となんと違うのだろうか…。時代の流れの中で『チビクロサンボ』が図書館から消えたり、「オウム関係の本」は高校の図書館に置くべきではないと議論されたりしたが、大人(教育者?)の考えることはすこしも変わっていない。

どんな本でも読者は年齢にあった受け取り方をし、考えるのではないだろうか。

めえーさんを戸惑わせたあの騒ぎはなんだったのだろうか、歳を重ねた今、なつかしく思い出している。

(福山 恭子:視覚障害児のためのわんぱく文庫代表)

わんぱく文庫は目の見えない子どもが自分で本を選べる場所です。大阪府立図書館児童室の一角で活動しています。

神田村を訪ねて—神田の路地裏で出版流通を考える—

松井 正英

変わりゆく神田村

夏の陽射しが照りつける7月中旬のある日、私は岩波書店の加藤彰紀さんの案内で、いわゆる「神田村」を訪れた（現在、加藤さんは岩波書店を辞められて、長野県にいらっしゃる）。

「神田村」というのは、おもに神田神保町一丁目に中小の取次が集まっていることから、この界隈を呼ぶ出版業界用語である。神保町の交差点から東西に伸びる大通りに面して、大きな書店やおもな古書店が並んでいるのは、本好きならばよく知っているところである。その通りから南に入るとすずらん通りがあり、それを渡ってさらに路地に入ると、その一帯が神田村である。

この神田村の景観が、ここ数年で大きく変わってしまった。かつては狭い路地の両側に取次が並んでいて、その間を出版社や書店の車や台車が行きかっていた。しかし、神保町の再開発計画によってこの一帯のほぼ半分が取り壊され、そこに大きなビルが2棟建った。そこにあった多くの中小取次は、再開発ビルに入居して営業を続けたり、他へ移転したり、これを機に廃業したりしたという。

それぞれの取次が得意分野を持っている

その日最初に訪れたのは鎌谷書店である。2002年に、神田の営業所がその再開発ビル（東京パークシティー）の二階に移転した。明治23年創業で、当初は専門書全般を扱っていたが、次第に自然科学を中心に販売するようになり、今では医学書を専門に600社近い出版社と取り引きしている。取引先書店も北は北海道から南は沖縄まで幅広い。

取次だけに、店内の様子はどちらかというと書店よりは図書館といった感じである。書架に並んでいる本はまさしく医学書のオンパレードで、書架の横には、どの出版社の本が収まっているかわかるように案内が付けられている。立ち寄っていたわずかの間にも、書店の方が入ってきては、目当ての本を探して仕入れていた。

神田村の取次には、それぞれ得意とする分野が

ある。加藤さんが道すがら、この取次はこの分野が得意だ、と教えてくれた。先の鎌谷書店は医学書が専門であるし、同じフロアにある誠光堂書籍は理工学・IT関連、通りに出て、博文社は学習参考書・辞典、明文図書は法律・経済・経営、日本地図共販は地図・旅行、というような具合である。また、地方・小出版流通センターは、流通に乗りやすく、読者の目に触れる機会が少ない地方出版社や少数数の出版物を専門に扱っている。

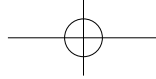
神田村が果たしている役割

現在、書店の多くはほとんどの本を大手取次から卸している。けれども、都内でも小書店の場合、大手の取次を使うとどうしても納品が遅くなってしまふ。その背景には、図書館関係者ならよくご存知のとおり、注文図書はその書店行きの段ボール箱がいっぱいにならないと、取次が発送してくれないという事情がある。そのため、急ぎのものや専門的なものは、注文する本の分野に応じて、神田村の取次に発注するという。場合によっては、鎌谷書店で目撃したように、書店員が直接神田村に出向いて本を仕入れていく。大手書店でも注文図書によっては、神田村に発注するところがあるそうだ。ひとえに、注文を受けた本を少しでも早く客の手元に届けたいという書店の努力であり、神田村の取次が果たしている重要な役割の一つだといえる。

たとえば、明文図書ではホームページで、「注文は翌日配達の基本」「法律・経済・経営・ビジネス書の在庫の充実を計り、高い調達率を維持」などと謳っている。このように小回りが利き、きめ細かく迅速な対応が可能なもの、中小規模で、専門分野を持っていることに拠るところが大きい。そして何よりも、神田村が大手の流通に乗りにくい、専門書や地方出版物の流通を支えている側面を見逃してはならない。

厳しい現実

けれども、神田村の中小取次の経営状況は、必ず



しも良いとは言えないようである。出版流通は、トーンと日販の二大取次が全出版物の7割近くを取り扱っている寡占状態にある。資本も人手も小規模の神田村の取次では、大規模経営の二大取次と同じようにやっても太刀打ちできるはずがない。これまでは、取り扱う出版物が特化していることと、対応のきめ細かさや迅速さによって補ってきた。しかし、それではもう補いきれないというのが現実なのかもしれない。神田村で中心的な存在だった鈴木書店の倒産は、こうした現実を象徴する衝撃的な出来事でもあるのだろう。鈴木書店は人文・社会科学を得意としてきた。倒産の背景には、そもそも人文・社会科学書の売れ行き不振があったようだ。しかし、出版社からの卸値率が高いことと、大学生協書店への優遇から低マージンになってしまったことが、経営を圧迫していたのではないかとされている。さらに、取引書店のいくつかが大手取次との取引一本化に踏み切ったことを指摘する声もある。

地方の学校図書館からみた出版流通の問題点

本を注文した場合、先にも触れたように、小さな書店ほど納品が遅くなる。それでは、新刊の場合はどうかというと、やはり小さな書店ほど虐げられている。大手取次は出版社が発行する初版部数の大半を仕入れ、それを書店の規模などに応じて配本する。ほとんどの書店は本が届くまで何冊配本されるのかわからないという。客から新刊の予約があるにもかかわらず、その分を見込んで納品してくれないのだ。本校でも、来月発行予定の文庫本を書店に予約発注するものの、発行時に来ないものがよくある。その後すぐに来ればいいが、そういうものに限って、大手書店には平積みになっているにもかかわらず、納品は1か月後、2か月後になってしまう。本校の取引書店は県内二番手であるのに、この状況なのだ。

こうした傾向は注文にも見られる。大手出版社には、中小規模書店には在庫さえ出そうとしないところがある。先日も、ホームページで出版社在庫ありと確認したにもかかわらず、書店員が電話で問い合わせたら「在庫がない」と返事をしてきた。それでホームページのことを持ち出して問い合わせ

たら、しぶしぶ「あります」と答えたのだ。ほかにも、似たような事例は案外ある。現在の出版流通自体が都市部などの多数の需要重視、大手の利益優先、そしてそのためのマイナー・弱者の切り捨てという体質を抱え込んでいるとしか思えない。

何が問われているのか

とにかく、出版流通自体の仕組みを見直してほしいというのが、地方にいる者としての率直な希望である。コンピュータ化が進んでいるこのご時世、いくら出版点数が多いとはいえ、ちょっとした改善でもう少し何とかなるだろうと思うのだが。

また、神田村の中小取次自身もあり方を見直していかなければ、今後生き残っていけないかもしれない。ただ、大手取次と同じ方式で生き残っても仕方がないと思う。これまでのいいところを残しながら、大手の対抗勢力になることが、大手を中心とした出版流通自体への揺さぶりとなるのだろう。

しかし、問われているのはそれだけではなく、消費者としての私たちの姿勢でもある、と加藤さんは言う。書店に限らず、大規模店ができればみんなはそこに行き、地元の小売店は立ち行かなくなっていく。でも、大規模店はそこで売れないとなればすぐに撤退してしまう。そのときにはもう、地元密着の小売店はつぶれてしまって残っていない。いま私たち自身が、開発のあり方をどう考えるかという問題を突きつけられているというのだ。

私たち図書館も利用者との信頼関係で成り立っている。だから、求められている資料は少しでも早く手渡したい。けれども、それを優先して、地元の文化を支えてきた中小書店を切り捨てればいかというと、問題はそんなに簡単ではないのだと思う。そこで切り捨てるのは単に地元書店だけではなく、地元文化そのものであり、自らが立っている地盤であるかもしれないからだ。

「地域に暮らす人々と相対する書店の存在は、日本の文化の在り様を左右する大きな出来事です。多様な文化の存在、価値観の存在は『出版文化の生命線』とも言うべきものです。」という加藤さんの文章を紹介して終わりにしたい。

(まつい まさひで:長野県立下諏訪向陽高校司書)

創立 30 周年記念行事

小学校へ「おはなしキャラバン隊」派遣

木下 通子

春日部東高校は、今年、創立 30 周年を迎えて、記念事業の一環として、小学校におはなしを届ける「おはなしキャラバン隊」を結成、私は司書として、その運営を任せられました。

最初は、図書委員に声をかけましたが、ノリがまいち。そこで、演劇部と音楽部に相談を持ちかけました。二つの部活からやりたいと希望してくれたのが 10 人。そこに 5 人の図書委員が加わって、キャラバン隊は 15 人でスタート。夏休み前に最初の打ち合わせを持ちました。当高は夏休みも、補習、部活と大忙し。その過密日程の中、みんなの都合をあわせて、春日部市立図書館に行きました。

春日部市立図書館では、実際にストーリーテリングをしていただきました。演劇部の 5 人がお話を覚えることになり、『おはなしのろうそく』（東京子ども図書館）の中から作品を選びました。私は、夏休み中、おはなしにあう絵本を選びに、春日部市立図書館と、さいたま市立岩槻図書館を何回か訪ねました。

9 月に入って、春日部市立八木崎小学校へ 9 月 29 日に行くことが決まりました。一年生 5 クラス。朝の読書タイムの 20 分を使って、5 クラス一度に展開するので、15 人のメンバーだと、ちょっと心細い。そこで、9 月 5 日付けの図書館だより「Li b」に、「おはなしキャラバン隊 隊員募集」の記事を載せました。この告知をみて、集まってくれたのが 8 名。合計 23 名が集まりました。

生徒は毎日忙しい。9 月 4～6 日に実力テスト、2 学期制なので 20 日～25 日が期末テスト。その合間をぬって、9 月 8 日に 23 名そろっての初顔合わせ。本番まで 3 週間。ストーリーテリング担当の 5 人は、頑張ってお話を覚える。残りのメンバーから絵本の読み手を募り絵本選び。ここで、実演者 10 人を決めました。実演者は自分のことはいっぱいいっぱい。そこで、司会者と細々とした目配りを

する担当のサポーター役を割り振りました。裏方の人たちは、キャラバン隊の旗作りもしてくれました。

9 月 14 日の第 2 回の打ち合わせには、春日部おはなしの会のお母さんに来ていただきました。この会は、20 年以上も前から活動しているボランティア団体で、ほぼ毎日、市内の小学校におはなしを届けています。読み聞かせ時の座り位置、本の持ち方、めくり方など、細かく指導していただきました。また、ろうそくなどの小道具を貸していただいたり、手遊びも教えていただきました。

中間テストが終わってから全体練習をはじめました。各組 20 分で収めるために、みんなの前でリハーサル。本番の手順は、司会者を先頭に手作りの旗を持って入場。司会者が始まりの挨拶をして、ろうそくに火をつけて教室はお話の部屋に変身。ストーリーテリングと絵本の読み聞かせをして、残り時間を見ながら手あそびなどを織り交ぜ、最後は 9 月生まれの児童にろうそくを吹き消してもらって、締めめの挨拶をし、にこやかに退場。隣のクラスと時間の差があまりないように、司会者とサポーターで調整しながら進めます。最初は知らない同士だったメンバーが、協力して練習している姿は、とても頼もしかったです。

当日はよく晴れたお天気でした。最終打ち合わせ後、いよいよ教室へ。朝日新聞、読売新聞、テレ玉（地元のテレビ局）が取材に来ていたのですが、生徒たちは落ちついたもので、臨機応変に手遊びを入れたり、雑談を交えたり、20 分を使いきりました。八木崎小学校の先生方からもお褒めの言葉をいただきました。

おしゃべりが大好きな私は、生徒とからむのも大好き！でも、子どもを抱えて残業できない今は、物理的にも難しい…。今回思ってもみない形で、ふだん顔も知らない生徒と共に活動を創り上げる機会を得ました。春日部おはなしの会のみなさんとも親しくなり、その後、家庭科の授業にきていただきました。私も今、「情報」の授業の最初に、絵本や短いおはなしを読ませてもらっています。ああ、楽しい！読書の秋です。

（きのした みちこ：埼玉県立春日部東高校司書）

あのにくさにあんな意味が?!

しぐさの民俗学

常光 徹著 しぐさの意味を民俗学から読み解く。2940円

呪術的心性と世界

たのしく読める 作品ガイド120

英米の絵本

桂宥子編著

『世界図絵』『妖精の国で』『ちいさいおうち』等、英米を中心に、オーストラリア、ニュージーランドの120の絵本を厳選し紹介。2940円

京都市山科区日ノ岡堤谷町1
TEL075-581-0296 ※価格税込

ミネルヴァ書房

隔月刊 国際交流が つかなく 彼方と此方

遠近

wochi kochi

2006年10-11月号 絶賛発売中!

13 10月1日発行 定価525円(税込)

特集 **日本発! アニメの魅力**

【対談】 **アニメーションの創造力**
テレビアニメからアート・アニメーションまで
——山村浩二×竹熊健太郎

ANIME、世界を駆ける

- アニメとマンガで教える日本の心(カナダ)
- 知られざる日韓合作プロジェクト(韓国)
- 10年がかりで実現した『手塚治虫』展(豪州)
- ジブリ作品、12都市を巡回する(モロッコ)
- 世界最大規模のアニメーション映画祭へ(広島)

〈執筆陣〉伊東豊雄/マイケル・エメリック/田沼武能/渡辺 靖 黒木 亮/谷口智彦/ファブリス・アルデュエニほか

定期購読受付中

(発売) 山川出版社 TEL:03-3293-8131 FAX:03-3292-2994
(発行) 国際交流基金(ジャパンファンデーション) www.jpf.go.jp/j/publish_j/wochikochi/index.html

新体系日本史1 シリーズ中、最も刊行要望が多かった1冊!

古代から現代まで、各時代の国家の概念とその社会への浸透諸手段、国家諸機構、国家諸機能とその制度的仕組み、社会からの合意調達などの視点から言及した通史。

国家史

宮地正人 五味文彦 編
佐藤 信 高埜利彦 編

A5判・576頁 定価4,725円(本体4,500円)

歴史散歩全面改訂中!
交通機関・地図・電話番号・伝統芸能・特産品・観光案内所など、旅に役立つ情報満載のガイドブック。B6変型判。

12月刊行予定

北海道の歴史散歩

定価1,260円

岩手県の歴史散歩

定価1,260円

〒100-0047 東京都千代田区内神田一三三三
電話03-3233-9311 http://www.yamagata.co.jp/

山川出版社

かもがわ出版

ことばの力 平和の力

近代日本文学と日本国憲法

小森陽一◎著 定価1785円

樋口一葉、夏目漱石、宮澤賢治、大江健三郎の文学作品を通して、ことばをめぐる個人と国家の相克を検証し、日本国憲法の意味を問う。

小森陽一著 ことばの力 平和の力

602-8119 京都市上京区堀川通出水西入
http://www.kamogawa.co.jp TEL 075(432)2868 FAX 075(432)2869

雑誌出版ニュースの05年の主要記事約900頁を収録

出版年鑑 2006

B5判 函入・2分冊・定価本体 30000円+税

「第1巻」資料・名簿 「第2巻」目録索引

第1編 年間史年表 書籍目録
第2編 法規・規約 電子書籍目録
第3編 統計・資料 CD-ROM目録
第4編 名簿 オンデマンド出版目録

出版ニュース縮刷版 雑誌目録

50年の歴史をもつ出版社名簿の決定版

日本の出版社 2006

四六判 824頁・定価本体 4500円+税

出版社約4400社の社名、所在地、電話組織、創立年、資本金、従業員数URL、EMAILアドレス、振替番号、社長、出版代表、営業代表者名

出版ニュース社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-40-7
電話03-3262-2076 FAX03-3261-6817
http://www.snews.net/

漢字の由来が分かって感激、の声多数

白川静の漢字学入門字書。本源にさかのぼれば漢字はこんなにおもしろい。2冊揃えば名付けにも役立つ!

【既刊】 **人名字解**
人名字用漢字983文字の字書 定価1995円(税込)

【既刊】 **常用字解**
日常使用されることの多い常用漢字1945文字の字書 定価2940円(税込)

白川静 津崎幸雄
人名字解 白川静 津崎幸雄
常用字解 白川静 津崎幸雄

平凡社 〒112-0001 東京都文京区白山2-29-4
TEL 03-3818-0874(営業部)

図説 恐竜の時代

BBC制作のテレビシリーズ
「WALKING WITH DINOSAURS」
をもとにしたビジュアルな科学読み物



ティム・ヘインズ・著
小島郁生・監訳
池田比佐子・訳

海外で
25万部
を超える
ベストセラー

● B4変
● 288頁
● NDC 457
定価8,925円
(本体8,500円)

岩崎書店 〒112-0005 東京都文京区水道1-9-2 TEL.03-3812-9131
http://www.iwasakishoten.co.jp

① 動物と植物

図説科学の百科事典(全7巻) 第1回 定価6,825円

のシリーズ海 ① 哺乳類

大隅清治監訳(全5巻) 第1回 定価4,410円

法則の辞典

山崎 昶編著 定価12,600円

心理学総合事典

海保博之・楠見 孝監修 定価29,400円

⑬ アメリカ・カナダ

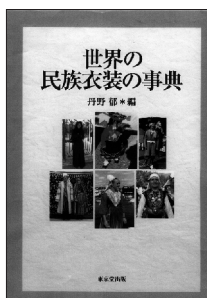
朝倉世界地理講座(全15巻) 第1回 定価16,800円

07 総合図書目録にあります。ご請求下さい。

朝倉書店 東京都新宿区新小川町6-29
TEL:162-8707 FAX:03-3260-7631

世界の民族衣装の事典

限りなく広がる知識の世界



装いの世界遺産の
数々を紹介。
本格的な事典完成!

丹野 郁監修 世界各
国の民族衣装を60余の
国や地域に分け、カラ
ー写真・図版を交えて
わかりやすく解説した。
B5判 21000円(税込)

●最新刊

東京堂出版 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-17
TEL.03-3233-3741 http://www.tokyodoshuppan.com

今人舎 なんでも学 オロジーズ

しかけを駆使し、あらゆるテーマを「学問」するシリーズ

ドラゴン学
ドラゴンの秘密完全収録版
26×31cm/本体2800円

エジプト学
オシリス神の墓を求めて
26×31cm/本体3200円

魔術学
魔術師マーリンの秘密
26×31cm/本体3200円

**サンタクロース
の秘密**
26×31cm
本体2850円

ドラゴン学ノート
ドラゴンの追跡と調教
ドラゴン組み立てモビルつき 本体2500円

エジプト学ノート
聖なる文字ヒエログリフを知る
19×26.5cm/本体1800円

問い合わせ・予約
今人舎 TEL:03-0120-525-555 FAX:03-0120-025-555
URL:http://www.imajinsha.co.jp/

絵と文/ジャネット・ウィンター
翻訳/長田 弘

バスラの図書館員

——イラクで本当にあった話——



ニューヨークタイムズの記事
から生まれた胸をうつ絵本

2003年春、イラクの文化都市バスラ
に戦争の影がしのびよります。大事
な本を守るため、ひとりの女性が図
書館の3万冊の蔵書を家に運びこみ
ました……。

◆ B5判 / 32頁 / 1680円(税込)

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-12
電話 03-3255-4501
http://www.shobunsha.co.jp/

晶文社

新・国史大年表

全九巻+索引一巻
日置英剛編

空前絶後の情報量!!

古代から現代まであらゆる分野を網羅した、
新しい時代の読む年表、いよいよ刊行開始!!

- 第一巻 古代(九十九年) (第一回記本二〇〇七年一月号定)
- 第二巻 一〇〇〇〜一三〇〇年 (第二回記本予定)
- 第三巻 一三〇〇〜一五〇〇年 (第三回記本予定)
- 第四巻 一五〇〇〜一七〇〇年
- 第五巻 一七〇〇〜一八五二年
- 第六巻 一八五三〜一八八六年
- 第七巻 一八八七〜一九二五年
- 第八巻 一九二六〜一九六〇年
- 第九巻 一九六〇〜二〇〇〇年
- 索引巻 (最終記念)

2006年10月より刊行開始!!
全巻予約受付中!!

国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427【税込価】